

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部・ 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘・鄭銀志・岡本弘道・栗原武士	2022年9月28日9:30 オンライン	オンライン (Teams)	テーマ：ゼミ（卒業論文・）の運営方法（コース内・外教員の）について研修
				実施目的：卒業研究指導（ゼミ）の運営について情報交換とノウハウの共有
				キーワード：ゼミ運営、卒業論文と地域課題解決研究、コース内・外教員
				実施内容： R4年度から実質的に指導がはじまった卒業論文と地域課題解決研究を指導するためのゼミ（3・4年）の運営に関して、コース外の教員と指導方法などを共有し、地域文化コースとしての指導方針や指導内容の明確化を図り、コース所属教員とコース外教員の共通認識を醸成することを第一の目的とする。運営上の問題点を洗い出し、学生にとって公平でかつ有意義なゼミの運営の方法論について議論することで、各教員の指導力の向上に寄与する。

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学 部・ 地域創生学 科 地域文化コ ース	吉本和弘・小川 俊輔	2022年10月12 日 10:40 オンライン	オンライン (Teams)	テーマ： 科研費補助を受けた研究課題の紹介
				実施目的： コース教員同志の研究内容の共有、科研費獲得に向けての意識向上とノウハウの共有
				キーワード： 科研費獲得、研究課題紹介、
				実施内容： 科研費を獲得し研究を継続中の教員3名による研究内容紹介と科研獲得の体験をコースで共有し、所属教員同志がお互いの研究内容を学ぶことで連携の可能性を探ったり、異分野のアイデアを取り入れることにつなげる。そして同時に科研費獲得に向けての意欲を高める。

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営学科	朴 唯新	R4. 6.8（水）～ R4. 12.8（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	テーマ： コロナ禍の対面授業とクォーター制での授業における工夫と課題
				実施目的： クォーター制導入による授業への影響について情報共有
				キーワード： コロナ禍, クォーター制導入, 情報共有
				<p>実施内容：</p> <p>本学では、誰もがコロナウイルスに感染する可能性がある中での対面授業とクォーター制での授業の導入が進んでいる。そのため、各教員は日々、様々な工夫や改善を施しながら、授業を行っている。本FDではそれらについて経営分野の全教員で情報共有・意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討する。</p> <p>具体的には、クォーターが終わる時期の学科会議に合わせて、教員が授業進行において行ったユニークな取り組み等について報告・共有する。今年度は、コロナ禍で対面授業が実施され、またほとんどの授業がクォーター制で開講されるため、各教員の担当科目を題材に、クォーター制だからこそ取り入れることができる工夫や、コロナ禍でのハイフレックス授業の実施方法などの各論点について議論を行う。報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換する。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
<p>地域創生学部・地域創生学科・地域産業コース（情報学分野）</p> <p>経営情報学部・経営情報学科</p>	<p>陳 春祥 岡部正幸 富田哲治</p>	<p>後期月曜 1-4 限 毎月の学科会議</p>	<p>IoT・AI 実験室 1321 演習室 1326 演習室</p>	<p>テーマ： PBL 形式で取り組む情報技術による課題解決を通じた学生協働支援</p> <p>実施目的： 副専攻プログラムにおける実験・実習科目での教員によるチーム支援体制の構築</p> <p>キーワード： IoT, AI, PBL, 学生協働, キャリアビジョン, 支援体制</p> <p>実施内容： 地域創生学科・地域産業コース（情報学分野）の新課程における新たな取組の一つである副専攻プログラム「IoT・AI 応用技術認定」の上級レベルでは、「IoT システム開発プロジェクト演習」および「AI システム開発プロジェクト演習」の2つの実験・演習科目を今年度後期から新規開設する。両科目は、少人数の学生でチームを作り、学生が協働して PBL 形式で IoT・AI 情報技術を利用した課題解決に取り組み、情報学分野の全教員がそれを指導・支援するものである。今年度後期の開講に向けて、前期中に IoT・AI 実験室の環境整備を行っている。教員は IoT 分野と AI 分野でチームを作成し、各チームで PBL での課題提示、学生協働の支援を行う。これら2つの実験・演習科目は、実社会での課題解決に情報技術を展開する企業等からの外部講師による講演をオムニバスで実施する「IoT・AI 特別講義」と連携することで、IoT・AI に関連する情報技術の能動的な学びへの動機づけと、学生のキャリアビジョンのイメージ具体化に繋がることが期待される。本 FD を通じて、教員がチームで学生協働を支援する体制づくりについて、本年度の実施内容をコースで振り返ることで、課題の抽出と次年度に向けた体制づくりについて検討・情報共有を行う計画である。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
<p>人間文化学部 健康科学科</p> <p>地域創生学部 地域創生学科 健康科学コー ス</p>	<p>松本 拓也 山岡 雅子</p>	<p>通年：第3水曜日 コース会議</p>	<p>Teams における オンライン会議</p>	<p>テーマ：健康科学コースにおける学生支援活動の質的向上</p> <p>実施目的：今年度卒業の困難な4年生が健康科学科に2名（内1名外国人留学生）在籍している。さらに、今年度外国人留学生が健康科学コースに1名入学している。健康科学科・健康科学コースでは、多様な実験・実習科目を提供しており、グループで課題に取り組む内容が多く、高いコミュニケーション能力が必要となる。コミュニケーションが苦手な学生や諸問題を抱えた学生が着実に卒業できるよう組織的な支援が必要である。</p> <p>キーワード：外国人留学生，学生支援，組織的取組</p> <p>実施内容： <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学コース学生の履修や授業の出席状況等に関する情報を月1回のペースで教員間で共有し、学生が抱える課題を早期に発見して対応するための学生支援活動の更なる向上を目指す。緊急の場合は、随時、情報交換を行う。 ・本活動の実施に当たっては、教学課学生支援係および学生相談室と連携し、チューターを中心としたチーム支援を継続的に実施する。 </p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科 学部 生命環境科 学科 生命科学コ ース	伊原 伸治	未定（随時）	大講義室，各研究 室	テーマ： 生命環境科学基礎セミナー、生命科学セミナーの実施方法の改善とキャリア形成への動機付け
				実施目的： 研究室配属を1年次から意識させ、学生が興味のある卒業研究に取り組めるように積極的に学ぶようにサポートする。
				キーワード： アクティブラーニング，学びの意識づけ，キャリア形成
				実施内容： 生命科学コースでは、1年時は生命環境科学基礎セミナー、2年時には生命科学セミナーで所属教員が分野および研究内容を紹介しているが、その実施方法について昨年度までの学生アンケート結果や教員からの意見を参考にして改善を行い、ブラッシュアップを図る。 具体的には、研究室配属の希望はGPA順に決まることを1年時から周知する。このことによって学習意欲の向上を見込む。また生命科学セミナー（2年3Q必修）で、全教員の研究室訪問を行い、所属コースの研究室で学べる内容、研究の方向性を紹介することで、研究領域、将来像、そして配属を希望する研究室の研究内容の理解を促進する。研究室配属前に各研究室の内容とその個性を十分に学生が理解することで学生の希望に沿った研究室配属の決定が可能となることが期待され、さらに学生自身の卒業研究への取り組む意欲の向上及び学生の自律的なキャリア形成に結び付けたい。

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科 学部 生命環境学 科 環境科学コ ース	大竹 才人 橋本 温 青柳 充 小林 謙介 柳下真由子	令和4年度 期間内	庄原キャンパス オンライン会議	<p>テーマ： 新カリにおけるアクティブラーニングを活用した学びの完成</p> <p>実施目的： 1年次から3年次まで通した主体的能動性向上カリキュラムの運用と改善</p> <p>キーワード： 1年次セミナー、2年次セミナー、3年次中間発表会</p> <p>実施内容：</p> <p>R2より施行された新カリキュラムにおいて、環境科学コースでは能動的学修を醸成させるため、アクティブラーニングを用いた独自の取り組みを1年次から3年次までを通して設定した。本年度は新カリキュラム3年目に当たり、この学びの体系が完成する。昨年度はオンライン授業により実施して、その運用の知見が蓄積されて本学紀要にまとめられた。本年度はこの成果を活かして、1～3年次までを通じた独自の取り組みを実施して、学生アンケート等を通じてその効果と主体的能動性の向上に向けた更なる改善を試みる。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	教育課程検討会青 井聡美	毎月1回	Teams オンライン会議	テーマ： 看護学コース DP ルーブリック作成と学修支援アドバイザーの運用と国家試験対策
				実施目的： DP 達成度の可視化と主体的な学修を促進させる学修環境の充実を図る。
				キーワード： DP ルーブリック 学修支援アドバイザー 国家試験対策
				実施内容： 1. 看護学コース DP ルーブリック作成 看護 FD 研修会を活用し、コース教員全員で議論しながら「看護学コース DP ルーブリック」の完成を目指す。(9月完成予定) 2. 学修支援アドバイザー・卒業生アドバイザーの運用と運用方法の検討 3. 国家試験対策 3つの対策を実施する。 対策①： 国家試験対策通信を2回配信予定（第1回：5月，第2回1月） 対策②： 国家試験対策解剖学セミナーを1回開催予定（津森教授に依頼予定） 対策③： 卒業生との座談会を予定（8月開催）

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科 /保健福祉 学科看護学 コース	実習検討会 日高陵好	テーマⅠ 年1回 (令和5年4月) テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ Zoom 利用 テーマⅡ Teams 会議また は本学会議室を 使用 (*コロナ感染 対策状況に応じ て決定する)	<p>テーマ： テーマⅠ：実習指導担当者との情報共有と協議：昨年度実習の成果と課題・看護実習教育の質向上 テーマⅡ：臨地看護実習教育の充実</p> <p>実施目的： 本学教員と実習指導担当者間で情報共有と協議を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握・共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る。</p> <p>キーワード： 臨地看護実習、情報共有、看護教育質向上</p> <p>実施内容： テーマⅠ：本学教員と各実習施設の担当者との間で、合同協議会を開催する。協議会では昨年度の実習の成果と課題、今年度の実習概要を共有し、より良い看護教育に向け協議を行う。協議のテーマは看護教育の動向を踏まえて決定する。 テーマⅡ：臨地看護実習教育の充実に向けて設定した以下の内容を毎月1回の会議で実施状況の報告や審議事項について検討を行い、コース内で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>令和5年度の実習計画案の作成・実習での感染対策の検討(看護学コース COVID-19対策ガイドラインの見直し含む)・各実習施設の環境の充実のための検討・SNSにおける個人情報の取扱い等の徹底のための方法の検討・事故報告書等の管理の検討・各論実習前の3年生の看護技術の向上のための教育の検討</p> </div>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部看護学科/ 保健福祉学 科看護学コ ース	看護学科/ 看護学コース FD 担当 吉田 和美	テーマⅠ 前期:毎月1回 後期:2回程度 テーマⅡ 月1回 他, 随時開催	Teams オンライン会議	<p>テーマⅠ：目標・ポリシーに準拠した教育評価の推進に向けたルーブリック導入 テーマⅡ：看護学コース人材育成目標に準拠した教育方法の検討</p>
				<p>実施目的：人材育成目標や卒業時の到達目標の達成に向けた教育方法の検討と刷新，適正な教育評価を目指した取り組みを推進する。</p>
				<p>キーワード： DP ルーブリック 実習ルーブリック Dx 教育 地域活動</p>
				<p>実施内容： テーマⅠ； ○ルーブリック作成のための研修 看護学コースディプロマポリシー（DP）ルーブリック完成を目指した研修（前期5・6・7月） 科目ルーブリック（実習，他）（前期4月，後期2回程度） テーマⅡ； 1. Dx教育導入に向けた教育方法・成果の論文化に向けた意見交換会 2. 看護学分野に関する論文抄読会 （上記1,2を合わせて，月1回程度開催） ○地域活動に関する情報交換会と Teams を活用した情報共有</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	佐藤勇太	(前期) 毎週水曜日 4 限 (後期) 毎週水曜日 1 限	Teams 内(予定)	<p>テーマ： 「学生の動向を把握・共有する」, 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」, 「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的： 「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」, 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義形態・方向性の共有および改善を図る」, 「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」</p> <p>キーワード： 学生支援, 国家試験, 教育実践</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生の動向を把握・共有する」について 今年度に入り原則対面での講義が展開されている。一方これまでのオンライン講義等の実施により、知識・技術の定着には個人差もあることが予想される。そこで各チューターを中心に科目担当や学科教員とともに学生の動向を把握するよう努める。また、各学生の情報を共有することで、指導・援助の一貫化を図る。各学生の状況は、毎週のコース会議にて各学年担当のチューターから報告される。配慮が必要な学生については、各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし、協議を行う。臨床実習の時期には、臨床実習指導者と教員が連携し、学生状況の把握・共有を図る。</p> <p>(2) 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」について 指定規則改正や国家試験出題基準改定の内容に即した実習形態や講義内容にするために専門教育のさらなる充実を図り、講義内容、学生指導のあり方について検討する。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有を行う。コース会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用する。コース会議に合わせて月 1 回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味する。また、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を引き続き行っていく。</p> <p>(3) 「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、研究・教育能力の向上を図る。コース会議に合わせて月 1 回程度、各教員の研究紹介などを通して実施予定である。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとする。</p>

令和4年度 県立広島大学 保健福祉学部・保健福祉学科・作業療法学コースによるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部・保健福祉学科 作業療法学コース	助川文子	テーマⅠ コース会議 (毎回) テーマⅡ 年10回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	ハイブリッド (2416会議室 と Teams)	テーマⅠ：学生支援の検討 テーマⅡ：「教育と研究領域を主題とした発表」
				実施目的：テーマⅠ 学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る。事例検討，テーマⅡ：各教員の教育課題や研究領域における課題を主題とし，最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上を図る。
				キーワード： 学生指導，臨床実習指導，国家試験指導，アクティブラーナー，研究
				実施内容： コース会議：学生情報の共有 ①（5月18日）（高木）高学連携 ②（6月15日）（吉川）クリニカルリーズニング ③（7月20日）（増田）大学広報/アンケート報告 ④（8月3日）（久野）質的研究など研究法 ⑤（9月21日）（助川）WFOT発表報告 ⑥（10月19日）（藤巻）作業療法にふさわしい学生 ⑦（11月16日）（池内）3年生の評価実習報告 ⑧（12月21日）（西田）*研究等 ⑨（1月18日）（田中）総合臨床実習関連 ⑩（2月15日）（4年生チューター）国家試験前の情報共有

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学 部 保健福祉学 科 コミュニケ ーション障 害学コース	伊集院睦雄	令和4年度（月 に1回程度）	三原キャンパス 内／Teams 上	<p>テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動を目的とし、併せて研究活動の活性化を図る</p> <p>実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。また、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。さらに本活動を通し、教員の研究能力の向上と研究活動の活性化を促進させる。</p> <p>キーワード： 研究活動情報共有、教育の改善、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修内容の共有

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間福祉学 コース	大下由美	令和4年／令和 5年	三原キャンパス 内／Teams上	<p>テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上に向けて</p> <p>実施目的： 教育・研究に関する議論を通して、コースの特色を明確化する</p> <p>キーワード： アクティブ・ラーニング、オンライン教授法、ピア・レビュー</p> <p>実施内容： 本年度人間福祉学コースでは、以下の活動を行う。 (1) 昨年度のFD活動で提示された意見を踏まえ、今年度も、教育、研究、コースPRに関するディスカッションを行い、コース教育の充実と研究推進に取り組む。 ①本コースの教育内容等について、外部の視点（SA や卒業生等の意見）を積極的に取り入れる機会を持ち、コース教員全体で、振り返りを行う（年1回）。 ②少人数に分かれて、コース教員相互の研究に関する情報を共有する機会を持つ（年1回）</p> <p>(2) ピア・レビュー ①対面授業でのピア・レビューを積極的に行う。 ②社会福祉実習と精神保健福祉実習の代替措置プログラムにおいて、教員が相互に教授内容や方法について、意見交換を行い、代替措置プログラムの教育の質の向上を図る。</p>